

総合心療センター デイケアパティオ

室長 川渕 忠義

はじめに

令和7年（2025年）は利用者数の増加と安定した運営に向けた取り組みとして、メンタルヘルス不調者の現状を把握、他院・クリニックとの連携強化、新たな事業所への新規利用者の開拓を目標に掲げ実践をおこなった。結果として、昨年度に比べ、利用者数は微増したがコロナ禍前の利用者数には戻っていない状況である。依然、運営状況は厳しいと言わざるを得ない状況に加え、昨今、県内の精神科病院にてリワーク支援をおこなうデイケア施設も増えてきていることから、当院の強みを生かしたより良質な医療、丁寧な復職支援の実践が問われている。

運営状況

運営体制は、昨年と変更はなく、スタッフ構成については管理者（作業療法士）1名、公認心理師1名、看護師1名の計3名での運営であった。3名とも精神科臨床歴は20年以上のため良質な治療の提供、アセスメント力の強化、利用者一人ひとりに寄り添ったリワーク支援の実践をおこなった。個々のケースに対するカンファレンスの充実を図り、お互いの考えを共有することでアセスメント力や自身の内省力の強化を図ることができた。

実績

活動実績としては（グラフ1）に示すように、年間入所者数40名、退所者数26名であり、昨年度に比べ、入所者数は増加したが、後半、入所者数は伸び悩んでいるため、今後もクリニック等への積極的な働きかけを継続していきたい。また事業場との連携強化はもちろん新しい事業場の開拓も積極的におこなっていききたい。次に一日平均通所者数は微増しているが、安定した運営には至っていないため、これまで以上にケースのアセスメントの精度をあげ、継続した通所ができるよう支援体制の見直しをおこなっていききたい。入所者の紹介元（グラフ2）については、他院・クリニックからの紹介が初めて8割を超えた。今後も他院、クリニックとの連携強化を図っていききたい。一方、当院外来からの紹介は減少傾向にあり、当院外来患者層との隔たりは今後も続くと思われるため、対象患者の新患受け入れ等については医師、外来看護との連携を強化していきたい。

職種別（グラフ3）については、公務員が7割以上となり、次に会社員が2割、再就職を目指す無職の方も一定数いる結果であった。

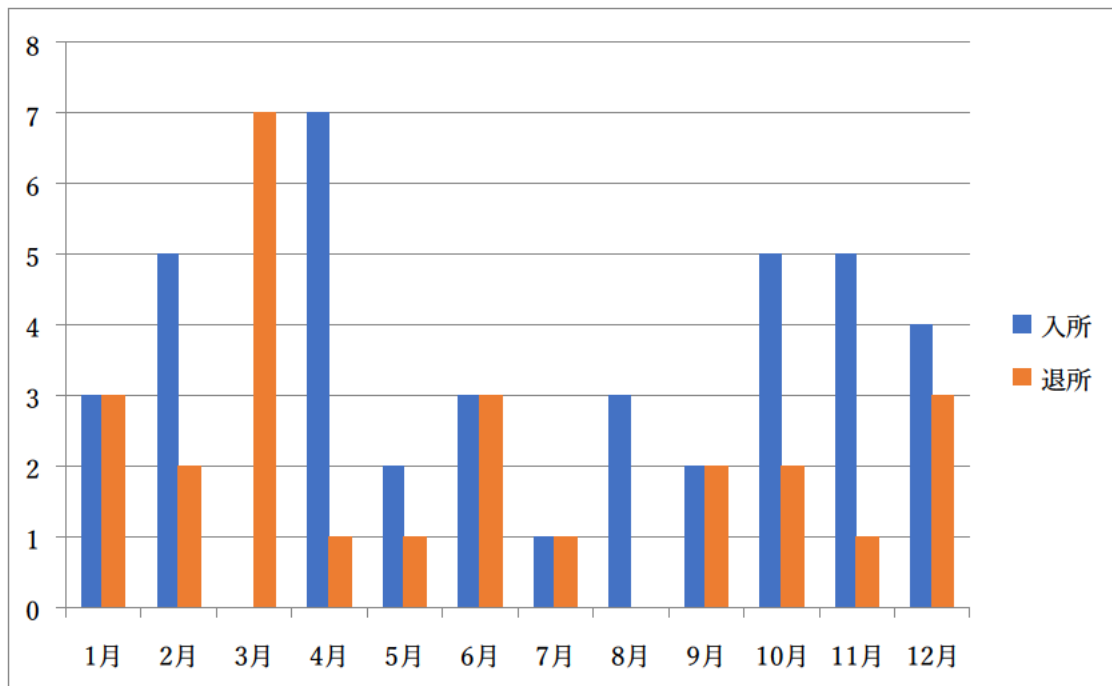
疾患別（グラフ4）の内訳としては、例年とほぼ変わりはなく、軽症のうつ病群を含めたうつ病層が半数を占め、次にその他に分類している適応障害、ASDの順となっている。ここ数年、ASDを主としたケースは増加傾向にあり、従来のうつをベースとして復職支援に比べ、事業場との連携がより肝心なため事業場との信頼関係の強化が必要となってくる。

利用者の平均年齢については38.9歳と昨年と変化はなく、男女比は女性利用者が男性より多い結果となった。入所から退所までの在籍期間（グラフ5）については、半年から一年未満が最も多く、つぎに半年未満であった。

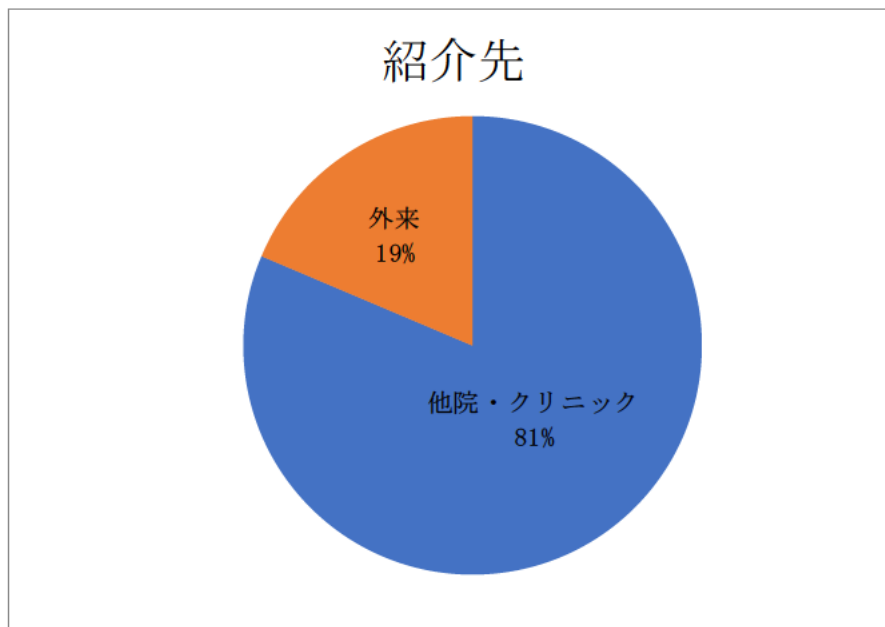
おわりに

次年度については現スタッフでの運営は3年目を迎えるため、安定した運営に向けた利用者数の増加を目標に全力で取り組んでいきたい。そのためには治療や復職支援がスムーズにおこなえる環境整備、提供する治療の質の向上に努め、スタッフ個々の対応力の強化を図っていききたい。

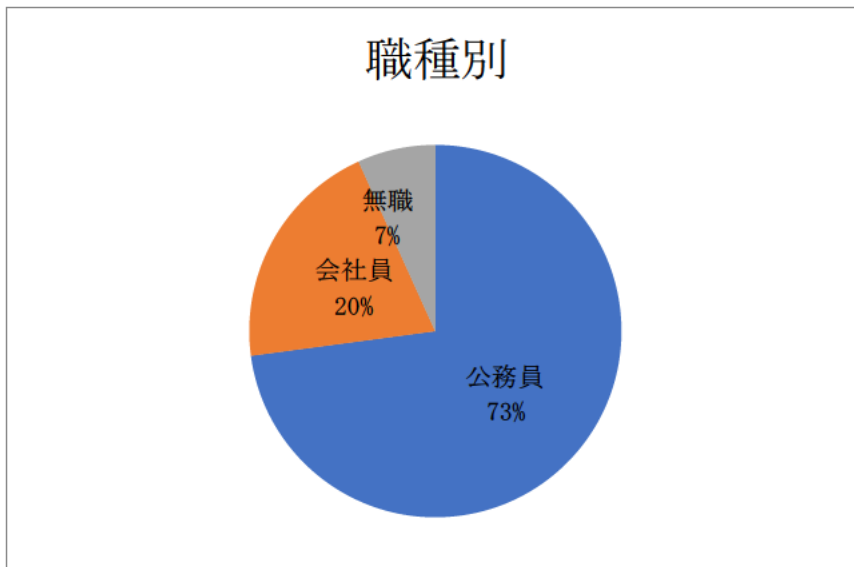
(図・グラフ 1 入退所者数)



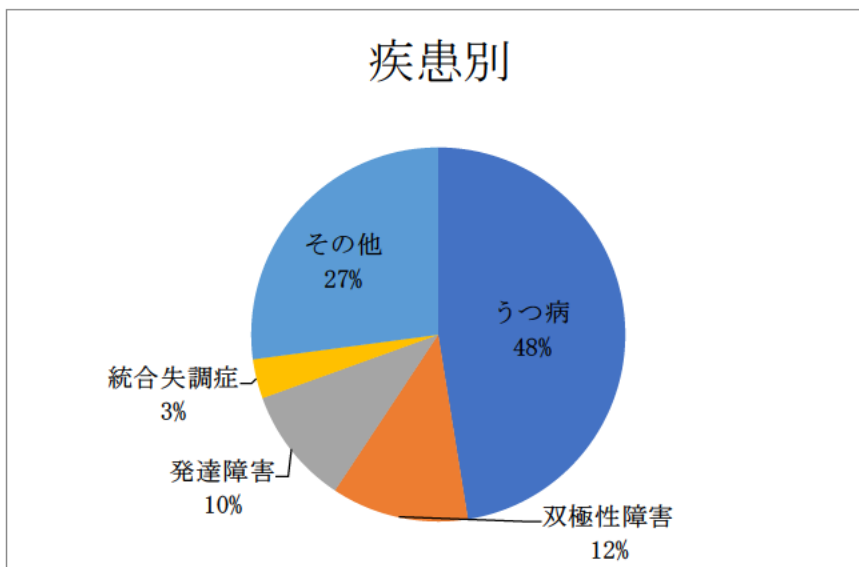
(グラフ 2 紹介元)



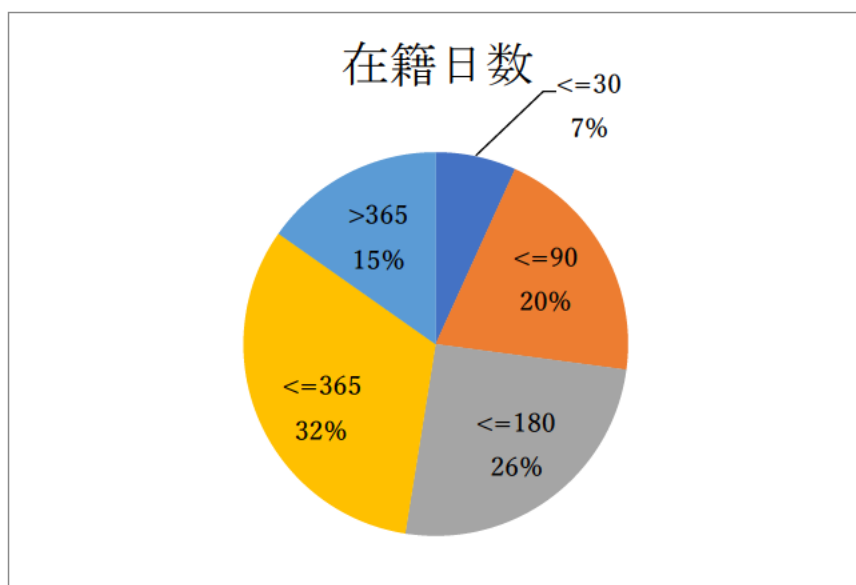
(グラフ 3 職種別)



(グラフ 4 疾患別)



(グラフ 5 在籍日数)



学術発表・講演会等 なし